

『一橋研究』 総目録 第1号～第20号 (1955～1970)

論……論説, 研……研究ノート, 評……書評, 資……資料, 各年度の学位授与・単位修得論文のテーマは、各巻末に掲載。

第1号 (1955年2月)

	創刊によせて……………	中山伊知郎
論	日本経済の発展と貿易……………	大沢 悦治
	所得分析における分配論的接近……………	塩野谷祐一
	価格理論をめぐる資本主義経済と社会主義経済の相違……………	山田 良治
	イギリス独占資本形成に関する一分析視角……………	清水 嘉治
	最小自乗法の基礎と計量経済学におけるその適用……………	宮川 公男
	英米割合運送賃論……………	魚谷 増男
研	拒否権と国際連合における新動向……………	小長谷和高
	マルクス経済学におけるプランの一問題点……………	熊谷 一男
	ウェーバーの社会主義論……………	林 武
	クラインの所得の定義について……………	加藤 寛季
	カレッキーの独占度について……………	長谷田彰彦
	大学院学生会の課題……………	加藤 寛季

第2号 (1956年3月)

	学界の封鎖性……………	井藤 半彌
論	レックス・サリカ研究の発展……………	石川 操
	アメリカ法における取締役会の常任委員会について……………	藤田 州雄
	ストライキと労働契約……………	喜多 実
	—— 独逸新派の理論 ——	
	米国海上運送業者の運送品の滅失毀損に対する責任……………	魚谷 増男
	管理会計論の課題……………	市村 昭三
	—— 経済計画との関連において ——	
	商品取引所の価格保険機能……………	田内 幸一
	—— 掛繋ぎの有効性について ——	
	商品経済の価値機構……………	高須賀義博
	—— 価値形態論の一考察 ——	
	Technology and Industrialization……………	Takashi Tsuru

第3号 (1957年3月)

	新しい研究方法を……………	上原 専祿
研	資産分類と期間所得の算定……………	久野 光朗
	資本蓄積論への道……………	花輪 俊哉
	定常確率過程の経済分析への応用……………	溝口 敏行
	外国人夫婦に対するわが国の離婚裁判権……………	海老沢美広
	A. コックス「労働協約上の権利」……………	坂本 重雄
	米国抵触法上の二・三の問題点……………	舩場 準一
	Significance of Chicago as the Material of American Literature……………	Akira Yajima
	イギリス経済史研究の一潮流……………	森本 義輝

第4号 (1958年3月)

	国民の社会科学ということについて……………	高島 善哉
論	経営学の対象に関する一考察……………	田島 壮幸
	ドイツ労働協約法における規範的事項とその効力……………	坂本 重雄
	貸付資金説と流動性選好説……………	志田 明
	徳島県の僻地教育……………	高橋 義寛
	「利潤率の傾向的低落の法則」について……………	篠原 三郎
	若きロックの思想形成について……………	中村 恒矩
	デイルタイの認識論……………	安田 良雄

第5号 (1959年4月)

	新制大学院の学位論文……………	大林 良一
論	John R. Commons: 「資本主義の法律的基礎」について……………	青木 英夫
	モーゼス・ヘスの社会主義……………	畑 孝一
	マルクス貨幣論の研究……………	加藤 寛孝
	適度人口……………	南 亮進
	「自然に帰れ」とは——ルソーの学説——……………	中島 巖
研	ローマ法継受研究ノート……………	勝田 有恒
	スペイン商法のいわゆる客観主義について……………	中川 和彦
	学生会の再建に寄せて……………	平田 光弘

第6号 (1959年11月)

	学問と現実について……………	上原 専祿
論	応用科学としての経営経済学……………	
	——モクスターの所論に関する一考察——……………	田島 壮幸

	逐次モデル	神田 祐一
	不完全競争と経済変動過程	松田 芳郎
	所有権とその社会的作用	松嶋由紀子
	日本のナショナリズムとデモクラシー——大井憲太郎の位置——	石原 保徳
研	単独決定原理と共同決定原理について	
	——グーテンベルクの所論を中心として——	平田 光弘
	起訴陪審について——主として米国の制度——	居林 次雄
	17世紀モンゴル史書「シャラ・トージ」とその周辺	田中 克彦
評	H.A. メシチェルスキ「古代ロシア語訳における	
	ヨセフス・フラウィウスのユダヤ戦史」	中村 喜和
資	一橋大学大学院学生の経済生活	一橋大学大学院学生会理事会
	第7号 (1961年)	
論	消費支出における職業効果	神田 祐一
	会社支配と取締役	青木 英夫
	資本蓄積と資本主義の腐朽化	宇藤 義隆
	1844年におけるマルクスの価値論	藤森 俊輔
	「イーゴリ遠征物語」における人間像	中村 喜和
研	所得分配構造の変動	松田 芳郎
	カザフスタンの文化活動家	田中 克彦
	社会的所有としての商品と価値の実体規定	中野 雄策
資	1853年スペイン有限責任会社法	中川 和彦
評	H. ハイネベル「小さな提琴首府ミュンヘンの一少年」	阿部 謹也
資	一橋大学大学院における安保改定反対運動	
	第8号 (1962年3月)	
論	コンツェルン指揮と取締役	青木 英夫
	農家の消費行動の計量経済学的分析	山沢 逸平
	ロシア芸術音楽における民族性の構造	大塚 明
研	韓国の離婚実態	金 震 燮
	ユニオン・デモクラシーと組合自治	
	——イギリス組合自治制限の法理を中心に——	竹内 規浩
	ニュー・ディール期におけるアメリカ労働運動	
	——CIO 成立史——	長沼 秀也
	リトルトン学説の一考察——メイと論争を中心に——	藤本美佐子

一 橋 研 究 第 21 号

- 評 オーギュスト・コルニュのヘス研究……………畑 孝一
 資 シンポジウム「学問と現実」

第 9 号 (1962 年 9 月)

- 論 唐代における均田法・租庸調法の反復公布と括戸政策……………中川 学
 Turgot の歴史意識の構造と論理……………渡辺 恭彦
 モンテーニュにおける理性の 2 重性とその現実認識の構造
 ——宗教改革と宗教戦争とをわかれはいかうけとめたか——……………高橋 誠
 研 工業生産の結合法則について……………平田 光弘
 耐久消費需要の分析……………島 久代
 資 ベネズエラ有限責任会社法……………中川 和彦
 評 J. クロプシヤー「政治と経済
 ——アダム・スミスの原理の一解釈」……………星野 彰男

第 10 号 (1963 年 9 月)

- 論 ヘスとマルクスの方法について……………畑 孝一
 ウェーバー・法社会学の基本的構成……………川上源太郎
 W.E. グラッドストンの財政政策……………西山 一郎
 シャーマン反トラスト法の制定……………長沼 秀世
 研 ニコラ・オットカールについて……………清水廣一郎
 Pierre Bayle にかんする若干の研究について……………渡辺 恭彦
 評 C.S. シャウプ「リカードの租税」……………和田 重司

第 11 号 (1964 年 11 月)

- 論 ヒューマニズムと階級闘争理論
 ——「ライン新聞」時代のマルクスにみる両者の論理連関……………富沢 賢治
 企業における投資計画計算について……………佐藤 宗弥
 価格変動と市場構造……………美濃口武雄
 ニューディール政策に対する AFL の反応——1935 年まで——……………長沼 秀世
 研 J.M. Baldwin のパーソナリティ理論……………折橋 徹彦
 誤想防衛に関する一考察……………庭山 英雄

第 12 号 (1965 年 8 月)

- 論 偽証罪の宣誓行為に関する一考察……………庭山 英雄
 誌上シンポジウム『学問と現実』

問題提起

「学問と現実」実行委員会

1. 学問と現実

小 林 修

2. 理論と実践の統一のために	星 野 彰 男
3. 学問と現実	美濃口 武 雄
4. 学問と現実	山 内 敏 弘
5. 我々は何を研究すべきか	西 田 美 昭
6. 政治学の方法	川 上 源太郎

第13号 (1966年 6 月)

論	立法者の不作為に対する憲法訴願	山内 敏弘
	——社会的法治国家・西ドイツにおける新しい訴の形態——	
	経営経済概念に関する一考察	佐藤 正
	——レーマンの所論を中心として——	
研	国際組織における国家平等原則の相対比(1)	大谷 良雄
	G—S理論の基本構造	稲垣 寛

第14号 (1967年 2 月)

論	明治30年代前半の《東朝》《時事》の読者層	
	——商工読者層を中心に——	山本 武利
	韓国における統一運動概史	
	——民族解放闘争史研究の一環として——	崔 柳吉
	共同支配について	石原 全
	合併会社における出向社員の指向について	加藤 剛
研	F. リスト, ナショナルリズムの成立過程	
	——初期の政治論を中心に——	岸本 嬉子
	ケインズ「自己利子率」概念についての若干の検討	稲垣 寛
	ヒルファーディングにおける資本輸出論	徳江 和雄
	捜査手続の構造論	白井 駿

第15号 (1969年 1 月)

論	巨視的会計の吟味	河野 正男
	生糸における糸条斑検査の成立と格付	石崎 悦史
	リーベルマン構想における標準指標の設定	源河 朝典
	選択行為の公理化について	松山 敬左
	社会主義社会の性格について	横倉 弘行
	激情と責任能力	河原崎 弘
	過失犯における保障的機能	野村 幸雄
	ゲルツェンの短篇「どろぼうかささぎ」における	
	女優の形象について	長縄 光男

一 橋 研 究 第 21 号

- 研 経営財務論の展開……………小椋 康宏
資本蓄積の長期的進行過程……………田中 稔久
第16号 (1969年2月)
- 論 技術論的経営経済学の一考察……………笠原 俊彦
——ホフマンの所論を中心として——
Rudolf Hilferding 理論の根柢にあるもの……………米川 紀生
給付行政法論序説……………田村昭三郎
三つの財務論……………小椋 康宏
合衆国憲法誕生の社会経済的背景……………松田 賀孝
——反革命の所産であったか、否か——
- 研 毛織物工業における《国際的契機》に関する一考察……………佐藤 弘幸
労働組合法にいわゆる「暴力の行使」と刑法第35条……………小松 進
経済成長と国際貿易：幾何学的解明……………國本 和孝
所得階層別消費者物価指数における
アレン＝パウレイ方式の検討と拡充……………前川 功一
- 評 R. Frish, Theory of Production, 1965……………小野 浩
第17号 (1969年7月)
- 論 公共料金決定の理論
——限界費用原理の理論構造と問題点——……………林 正寿
不換銀行券とインフレーション……………川崎 誠一
ヘーゲルの労働観——とくに道具と機械の問題をめぐって——……………高柳 良治
- 研 1830年代後半のマンチェスター近郊における
民衆教育の状態について……………依光 正哲
第18号 (1969年12月)
- 論 「社会主義利潤」とその用具論的解釈について……………源河 朝典
仏(フランス)における限界費用原理の発展……………林 正寿
——Peak-Load Pricing について——
物価安定と完全雇用……………松水 征夫
——トレード・オフ曲線による理論的考察——
拡大再生産表式論の一論点……………長尾 史郎
——II_{mv} の実現について——
- 研 19世紀前半のロンドンにおける民衆教育に関する一考察……………依光 正哲
自由心証主義序説……………河原崎 弘

第19号 (1970年7月)

論	財政支出構造と選好仮説……………	林	正寿
	Fair Trade Laws における非契約者条項の違法性……………	谷原	修身
	ラテン・アメリカにおける手形・小切手法——メキシコ法 およびアルゼンチン法を中心とした若干の考察——……………	黒田	清彦
	心理的不協和実験の試み……………	永井	邦明
	マルクスの経済学における基礎視角の検討……………	音無	通宏
評	サイモン著『経営管理に即した行動(第2版)』……………	河野	大機

第20号 (1970年12月)

論	Z. パルビューの歴史心理学——その方法と問題——……………	永井	邦明
	計画経済における数学利用について——ランゲの場合——……………	藤森	頼明
	ビスマルク社会保険の社会的必然性論……………	藤田	伍一
	マルクス分業理論に関する一考察 ——『資本論』を中心として——……………	音無	通宏
研	古イースランド語母音組織について……………	大塚	光子
	経済成長の二階級モデル……………	内島	敏之
	諸資本の競争と投資行動……………	唐渡	興宣
	ケインズ国際通貨論の現代的意義……………	村本	孜
	院生ユーブング制度創設の主張と実践……………	黒田	勇
資	第2次大学院改革試案……………	大学院生自治会特別改革委員会	